

Fujitsu Integrated System

PRIMEFLEX for Nutanix Enterprise Cloud / Nutanix Enterprise Cloud on PRIMERGY

留意事項

本書は、PRIMEFLEX for Nutanix Enterprise Cloud / Nutanix Enterprise Cloud on PRIMERGY の留意事項について記載します。

はじめに

本書は、PRIMEFLEX for Nutanix Enterprise Cloud / Nutanix Enterprise Cloud on PRIMERGY (以降、本モデル) を利用する上での留意事項を記載しています。

本書の読者

本書は以下の読者を対象としています。

- 本モデルを利用して、お客様のインフラ基盤を構築する方
- 本モデルを含む、お客様のインフラ基盤の運用管理を担当する方

また、本モデルを構築、運用するにあたり、導入するサーバー、ネットワーク機器、サーバー仮想化ソフトウェアなどの知識、およびネットワークに関する一般的な知識があることを前提にしています。

本モデルの構成装置

シリーズ名	モデル名	構成装置
XF M7 シリーズ	XF1070 M7	PRIMERGY RX2530 M7 3.5 インチモデル
	XF3070 M7	PRIMERGY RX2530 M7 2.5 インチモデル
	XF8050 M7	PRIMERGY RX2540 M7 2.5 インチモデル
	XF8055 M7	PRIMERGY RX2540 M7 3.5 インチモデル
XF M3 シリーズ (販売終了)	XF1070 M3	PRIMERGY RX2530 M6 3.5 インチモデル
	XF3070 M3	PRIMERGY RX2530 M6 2.5 インチモデル
	XF8050 M3	PRIMERGY RX2540 M6 2.5 インチモデル
	XF8055 M3	PRIMERGY RX2540 M6 3.5 インチモデル
	XF8055 VDI M3	PRIMERGY RX2540 M6 3.5 インチモデル
XF M2 シリーズ (販売終了)	XF1070 M2	PRIMERGY RX2530 M5 3.5 インチモデル
	XF3070 M2	PRIMERGY RX2530 M5 2.5 インチモデル
	XF8050 M2	PRIMERGY RX2540 M5 2.5 インチモデル
	XF8055 M2	PRIMERGY RX2540 M5 3.5 インチモデル

関連ドキュメント

ドキュメント名称	本書での表記	説明
PRIMEFLEX for Nutanix Enterprise Cloud / Nutanix Enterprise Cloud on PRIMERGY Support Matrix	サポートマトリクス	本モデルで適用できる各製品・オプションのドライバ・ファームバージョンを記載します。

本書の表記について

■ キーボード

印字されない文字のキーストロークは、[Enter]や[F1]などのキーアイコンで表示されます。例えば、[Enter]は Enter というラベルの付いたキーを押すことを意味し、[Ctrl]+[B]は、Ctrl または Control というラベルの付いたキーを押しながら[B]キーを押すことを意味します。

■ 変数 : <xxx>

使用環境に応じた数値/文字列に置き換える必要のある変数を表します。

例 : <IP アドレス>

■ 操作画面について

本ガイド記載の操作画面画像は、例として掲載しているものであり、実際の操作画面と完全に一致することを保証するものではありません。

■ 登録商標について

Nutanix は、米国および他の国々で登録された Nutanix, Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server および .NET Framework は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

VMware、VMware ESXi、VMware vSphere Hypervisor、VMware vCenter Server、VMware vCenter Server Appliance、VMware vSphere は、米国およびその他の地域における VMware, Inc.の登録商標または商標です。

その他、会社名と製品名はそれぞれの会社の商標、または登録商標です。

本書に掲載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示(TM、(R))を付記しておりません。

高度な安全性が要求される用途への使用について

本モデルは、一般事務用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下、ハイセイフティ用途と表記)に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本モデルを必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本モデルを使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

安全にお使いいただくために

本書には、本モデルを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本モデルをお使いになる前に、本書を熟読してください。また、本モデルを安全にお使いいただくためには、本モデルに含まれる各製品(ハードウェア、ソフトウェア)をご理解いただく必要があります。必ず各製品の注意事項に従ったうえで本モデルをご使用ください。

本書は本モデルの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

適用法令・規制について

適用法令・規制については、本モデルに含まれる各製品(ハードウェア、ソフトウェア)に添付されているマニュアルを参照してください。

免責事項

本モデルの運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、いかなる責任も負いかねます。

著作権表示

Copyright 2023 Fujitsu Limited

本書を無断で複製・転載することを禁止します。

変更履歴

版数	提供年月日	変更内容	章・節・項
01	2023年11月	初版作成	-
02	2023年12月	説明を更新/変更	SecureBoot についての留意事項 LCM によるファームウェアアップデートについて
03	2024年02月	説明を更新/変更	全体
		新設	クラスタの健全性チェック (dense_node_configuration_checks) の留意事項 CLI による NCC のアップグレードについて ノード増設の留意事項

目次

構築	6
クラスタの健全性チェックでのメッセージについての留意事項	6
クラスタの健全性チェック (execInstalledOnly 有効時) の留意事項	7
クラスタの健全性チェック (dense_node_configuration_checks) の留意事項	8
SecureBoot についての留意事項	9
Foundation Platforms のアップグレードについて	9
CLI による NCC のアップグレードについて	10
運用	11
Prism でのネットワークカードのリンクスピード表示について	11
Backplane LAN の分離について	12
LCM によるファームウェアアップデートについて	13
SecureBoot (execInstalledOnly 有効時) の影響について	17
Prism での Network 画面の結線表示について	19
GPU についての留意事項	20
ノードの増設の留意事項	21
標準ノードの増設 (ESXi の場合) の留意事項	22
Foundation Platforms のアップグレードについて	23
保守	25
冗長化電源の片系故障時の留意事項	25
Prism での Network 画面の結線表示について	26
M.2 保守 (システムボードに搭載時) の留意事項	26

構築

ここでは、構築時に発生する可能性のあるトラブルへの対処方法や構築時の推奨設定について説明しています。

クラスタの健全性チェックでのメッセージについての留意事項

モデル	AOS	NCC
XF M7 全モデル	6.5.3.5 6.5.4.5	NCC 4.6.4 NCC 4.6.6.1
XF M3 全モデル	6.5.3 6.5.3.5 6.5.4.5	
XF M2 全モデル	6.5.3 6.5.3.5 6.5.4.5	

概要

クラスタの健全性チェックにて以下のメッセージが表示されます。

Detailed information for default_password_check:"ERR : Error fetching IPMI user list."

影響

メッセージの問題で、影響はありません。

原因

既知の問題 (Nutanix 社 ENG-566222)

NCC default_password_check を実行すると、エラーメッセージ "ERR : Error fetching IPMI user list." が出力されます。

クラスタの健全性チェック（execInstalledOnly 有効時）の留意事項

モデル	AOS	ハイパーバイザー
XF M7 全モデル	6.5.3.5 6.5.4.5	ESXi 7.0U3
XF M3 全モデル	6.5.1.5 6.5.1.8 6.5.2.5 6.5.3 6.5.3.5 6.5.4.5	ESXi 7.0U2 ESXi 7.0U3

概要

ハイパーバイザーが ESXi の場合、VMkernel.Boot.execInstalledOnly 設定のデフォルトは無効です。有効にした場合はクラスタの健全性チェックにてエラーが表示されます。

影響

VMkernel.Boot.execInstalledOnly 設定を有効にした場合、クラスタの健全性チェックにて以下のメッセージが表示されます。

チェック項目	メッセージ（抜粋）	NCC
ipmi_sel_check	ERR : node (service_vm_id: xxx) : Unable to fetch IPMI SEL log	すべて
power_supply_check	ERR : Unable to get PSU status information from all the nodes of block <シリアル番号>	
	ERR : cluster (arithmos_id: xxx) : Unable to fetch PSU Status info	
ipmi_sensor_threshold_check	ERR : node (service_vm_id: xxx) : Unable to fetch IPMI sensor info	
zeus_config_ip_address_check	ERR : node (arithmos_id: xxx) : Unable to fetch IPMI IP address.	
hw_raid_check	ERR : Failed to detect sata marvell raid controller	NCC 4.6.3 以降、かつ、デュアル M.2 コントローラカード搭載時

対処

VMkernel.Boot.execInstalledOnly 設定を無効（デフォルト）のまま運用することでエラーは回避できます。詳細については次の URL を参照してください。

<https://portal.nutanix.com/kb/10998>

クラスタの健全性チェック (dense_node_configuration_checks) の留意事項

モデル	AOS	NCC
XF M7 全モデル	6.5.4.5	NCC 4.6.6.1
XF M3 全モデル	6.5.4.5	
XF M2 全モデル	6.5.4.5	

概要

クラスタの健全性チェックにて以下のメッセージが表示される場合があります。

WARN: Node <xxx> with <xxx> GiB memory cannot support the HDD capacity of <xxx> TiB. The minimum required memory for the current HDD capacity is <xxx> GiB

原因

詳細については次の URL を参照してください。

<https://portal.nutanix.com/kb/7196>

対処

CVM メモリを増やすことで解消します。手順は『Prism Element Web Console Guide』の「[Increasing the Controller VM Memory Size](#)」を参照してください。

SecureBoot についての留意事項

モデル	AOS	ハイパーバイザー	BIOS
XF1070 M7	6.5.3.5	AHV	R1.7.0
XF3070 M7	6.5.4.5		R1.12.0
XF8050 M7			R1.13.0
XF8055 M7			

概要

SecureBoot 機能は利用できません。

影響

以下のモデルでハイパーバイザーが AHV、かつ、BIOS が R1.7.0、R1.12.0、および R1.13.0 の場合、SecureBoot 機能は利用できません。

- XF1070 M7
- XF3070 M7
- XF8050 M7
- XF8055 M7

対処

今後の BIOS 版数で、制限解除を予定しています。

Foundation Platforms のアップグレードについて

モデル	AOS	Foundation	Foundation Platforms
XF M7 全モデル	6.5.3.5	5.4.2	2.13.2
	6.5.4.5	5.5	2.14
XF M3 全モデル	6.5.3.5	5.4.2	2.13.2
	6.5.4.5	5.5	2.14
XF M2 全モデル	6.5.3.5	5.4.2	2.13.2
	6.5.4.5	5.5	2.14

詳細は「運用」の「[Foundation Platforms のアップグレードについて](#)」を参照してください。

「CVM Foundation の Foundation Platforms アップグレード (CLI Method)」を実施する際は、「CVM のパスワード」を「nutanix/4u」に読み替えてください。

CLI による NCC のアップグレードについて

モデル	AOS	NCC
XF M7 全モデル	6.5.4.5	NCC 4.6.6.1
XF M3 全モデル	6.5.4.5	
XF M2 全モデル	6.5.4.5	

概要

CLI による NCC のアップグレード中に、以下の WARNING が表示されます。

```
WARNING:root:Unable to parse cluster id from /home/nutanix/config/zookeeper/cluster_identifier.json:  
[Errno 2] No such file or directory: '/home/nutanix/config/zookeeper/cluster_identifier.json'
```

影響

メッセージの問題で、影響はありません。

運用

ここでは、運用時に発生する可能性のあるトラブルへの対処方法や推奨する運用方法について説明しています。

Prism でのネットワークカードのリンクスピード表示について

モデル	AOS	ネットワークカード	型名
XF M7 全モデル	6.5.3.5	ポート拡張オプション (10GBASE×2)	PYBLA352UN
	6.5.4.5	ポート拡張オプション (10GBASE×4)	PYBLA354UN
		ポート拡張オプション (25GBASE×2)	PYBLA402UN
		ポート拡張オプション (25GBASE×4)	PYBLA404UN
		Dual port LAN カード(10GBASE)	PYBLA3C2LN
		Quad port LAN カード(10GBASE)	PYBLA3C4LN
		Dual Port LAN カード(25GBASE)	PYBLA402LN
		Quad Port LAN カード(25GBASE)	PYBLA404LN
XF M3 全モデル	6.5.1.5	ポート拡張オプション (10GBASE×2)	PYBLA352UN
	6.5.1.8	ポート拡張オプション (10GBASE×4)	PYBLA354UN
	6.5.2.5	ポート拡張オプション (25GBASE×2)	PYBLA3F2UN
	6.5.3	ポート拡張オプション (25GBASE×2)	PYBLA402UN
	6.5.3.5	Dual port LAN カード(10GBASE)	PYBLA3C2LN
	6.5.4.5	Quad port LAN カード(10GBASE)	PYBLA3C4LN
		Dual Port LAN カード(25GBASE)	PYBLA3E22N
		Dual Port LAN カード(25GBASE)	PYBLA402LN
XF M2 全モデル	6.5.1.5	Dual port LAN カード(10GBASE)	PYBLA3C2LN
	6.5.1.8	Dual port LAN カード(25GBASE)	PYBLA3E22N
	6.5.2.5		
	6.5.3		
	6.5.3.5		
	6.5.4.5		

概要

上述のネットワークカードご使用時、Prism Web コンソール上で、リンクスピードが“0G”と表示されます。

リンクスピードは「0G」と表示されますが、Network 画面にて該当ポートの Link Status が「Connected」となっていれば、使用している SFP モジュールの仕様（SFP+ : 10Gbps、SFP28 : 25Gbps など）で通信が行われています。

Backplane LAN の分離について

モデル	AOS	備考
XF M3 全モデル	6.5.1.5	-
	6.5.1.8	
	6.5.2.5	
	6.5.3	
	6.5.3.5	
	6.5.4.5	
XF M2 全モデル	6.5.1.5	
	6.5.1.8	
	6.5.2.5	
	6.5.3	
	6.5.3.5	
	6.5.4.5	

概要

ネットワークセグメンテーションによる Backplane LAN の分離はデフォルト無効です。有効化する際には、ネットワーク構成・設定に留意があります。

Backplane LAN の利用可能範囲を以下に示します。

ブート用 M.2 の条件	ネットワーク構成・設定の条件	利用可能範囲
デュアル M.2 コントローラカードに搭載	制限なし	利用可能
システムボードに搭載	ネットワーク構成が Default Virtual Switch (vs0 または vSwitch0) のみ、かつ、ネットワーク設定の Bond Type が「Active-Standby」の場合	利用可能
	複数 Virtual Switch 構成 (vs0 と vs1 など) の場合	利用不可
	ネットワーク設定の Bond Type が「Active-Active」(LACP 有効) の場合	[注]

[注] M.2 故障時にブート用 M.2 へのハイパーバイザー再インストールが失敗する場合があります。

詳細は KB を参照してください。

<https://portal.nutanix.com/kb/5013>

LCM によるファームウェアアップデートについて

モデル	AOS	備考
XF M7 全モデル	6.5.3.5	-
	6.5.4.5	
XF M3 全モデル	6.5.1.5	
	6.5.1.8	
	6.5.2.5	
	6.5.3	
	6.5.3	
XF M2 全モデル	6.5.3.5	
	6.5.4.5	
	6.5.1.5	
	6.5.1.8	
	6.5.2.5	
	6.5.3	
	6.5.3.5	
	6.5.4.5	
	6.5.4.5	

概要

一部のコンポーネントにおいて、LCM によるファームウェアアップデート機能の利用ができません。

また、一部のコンポーネントにおいて LCM ファームウェアアップデートがメッセージ「Operation failed. Reason: LCM failed performing action reboot_from_phoenix in phase PostActions on ip address xx.xx.xx.xx.」で失敗する場合があります。失敗した場合は、次の KB を参考にノードをリカバリーしてください。

How to restore a node from LCM firmware upgrade failure using lcm_node_recovery script

<https://portal.nutanix.com/kb/9437>

また、Prism による NCC アップグレードは LCM2.6 から利用できません。詳細は LCM2.6 の『[Release Notes](#)』を参照してください。

Usage Caveats (Nutanix 社 ENG-553806)

また、Prism による Foundation アップグレードは LCM2.7 から利用できません。詳細は LCM2.7 の『[Release Notes](#)』を参照してください。

Usage Caveats (Nutanix 社 ENG-626644)

影響範囲

LCM によるファームウェアアップデート機能に問題がある場合は、Nutanix Support Portal にログインし、「[Knowledge Base](#)」および LCM の「[Notes](#)」を参照してください。最新の FUJITSU-LCM については、『[Release Notes | Life Cycle Manager RIM Bundles](#)』の「RIM Bundle: FUJITSU-LCM-<version>」を参照してください。

XF M7 シリーズの影響範囲

アップデートサイトと Nutanix Support Portal は不定期で更新されるため、本書記載の影響範囲は最新ではない場合があります。以下の条件において確認した結果を記載します。

■ Nutanix Compatibility Bundle (2023 年 12 月 15 日現在公開)

■ LCM 2.7

■ FUJITSU-LCM-1.20

以降の版数にて LCM によるファームウェアアップデート機能に問題がある場合は、Nutanix Support Portal にログインし、「[Knowledge Base](#)」および LCM の「[Notes](#)」を参照してください。

[凡例] ○ : 利用可能 × : 利用不可

コンポーネント	対象	ハイパーバイザー	
		AHV の場合	ESXi の場合
システムボード - BIOS	すべて	× [注 1]	× [注 1]
システムボード - iRMC	すべて	× [注 1]	× [注 1]
SAS コントローラ	すべて	× [注 1]	× [注 1]
デュアル M.2 コントローラカード	すべて	× [注 2]	× [注 2]
ブート用 M.2	すべて	× [注 2]	× [注 2]
ネットワークカード	すべて	× [注 2]	× [注 2]
SSD	すべて	× [注 2]	× [注 2]

[注 1] PRIMERGY の BIOS/ファームウェアの Web 公開ページ、および製品の修正モジュール同梱の readme/手順書を参考に実施してください。

[注 2] 出荷版数がサポートマトリクス記載の最新版数のため、ファームウェアアップデートの必要はありません。

XF M3 シリーズの影響範囲

アップデートサイトと Nutanix Support Portal は不定期で更新されるため、本書記載の影響範囲は最新ではない場合があります。以下の条件において確認した結果を記載します。

■ Nutanix Compatibility Bundle (2023年12月15日現在公開)

■ LCM 2.7

■ FUJITSU-LCM-1.20

以降の版数にて LCM によるファームウェアアップデート機能に問題がある場合は、Nutanix Support Portal にログインし、「[Knowledge Base](#)」および LCM の「[Notes](#)」を参照してください。

[凡例] ○ : 利用可能 × : 利用不可

コンポーネント	対象	ハイパーバイザー	
		AHV の場合	ESXi の場合
システムボード - BIOS	すべて	× [注 1]	× [注 1]
システムボード - iRMC	すべて	× [注 1]	× [注 1]
SAS コントローラ	すべて	× [注 1]	× [注 1]
デュアル M.2 コントローラカード	すべて	× [注 1]	× [注 1]
ブート用 M.2	すべて	× [注 2]	× [注 2]
ネットワークカード	E810 シリーズ	○	○
	X710 シリーズ	× [注 1]	× [注 1]
	MCX4121A シリーズ	○	× [注 1]
SSD	SM883	○	○
	上記以外	× [注 2]	× [注 2]

[注 1] PRIMERGY の BIOS/ファームウェアの Web 公開ページ、および製品の修正モジュール同梱の readme/手順書を参考に実施してください。

[注 2] 出荷版数がサポートマトリクス記載の最新版数のため、ファームウェアアップデートの必要はありません。

XF M2 シリーズの影響範囲

アップデートサイトと Nutanix Support Portal は不定期で更新されるため、本書記載の影響範囲は最新ではない場合があります。以下の条件において確認した結果を記載します。

■ Nutanix Compatibility Bundle (2023年12月15日現在公開)

■ LCM 2.7

■ FUJITSU-LCM-1.20

以降の版数にて LCM によるファームウェアアップデート機能に問題がある場合は、Nutanix Support Portal にログインし、「[Knowledge Base](#)」および LCM の「[Notes](#)」を参照してください。

[凡例] ○ : 利用可能 × : 利用不可

コンポーネント	対象	ハイパーバイザー	
		AHV の場合	ESXi の場合
システムボード - BIOS	すべて	○	○
システムボード - iRMC	すべて	× [注 1]	× [注 1]
SAS コントローラ	CP403i	× [注 2]	× [注 2]
	CP503i	× [注 1]	× [注 1]
ブート用 M.2	すべて	× [注 2]	× [注 2]
ネットワークカード	X550-T2	○	× [注 1]
	710-DA2	× [注 1]	× [注 1]
	MCX4121A-ACAT	○	× [注 1]
SSD	すべて	○	○

[注 1] PRIMERGY の BIOS/ファームウェアの Web 公開ページ、および製品の修正モジュール同梱の readme/手順書を参考に実施してください。

[注 2] 出荷版数がサポートマトリクス記載の最新版数のため、ファームウェアアップデートの必要はありません。

SecureBoot (execInstalledOnly 有効時) の影響について

モデル	AOS	ハイパーバイザー
XF M7 全モデル	6.5.3.5	ESXi 7.0U3
	6.5.4.5	
XF M3 全モデル	6.5.1.5	ESXi 7.0U2
	6.5.1.8	ESXi 7.0U3
	6.5.2.5	
	6.5.3	
	6.5.3.5	
	6.5.4.5	

概要

ハイパーバイザーが ESXi の場合、VMkernel.Boot.execInstalledOnly 設定のデフォルトは無効です。VMkernel.Boot.execInstalledOnly 設定を有効にした場合、以下のバイナリはブロックされます。

- Ipmitool
- Ipmicfg
- mvcli
- mnv_cli
- smartctl_cmd
- smartctl
- iSMART

これらのバイナリは Nutanix が情報収集に使用するため、Prism Web コンソール上に特定の情報が表示できません。詳細は KB を参照してください。

<https://portal.nutanix.com/kb/10998>

影響内容・代替手段

VMkernel.Boot.execInstalledOnly 設定が有効時の影響範囲は、以下のとおりです。

影響範囲	使用できない機能	影響範囲	代替手段
LCM	<ul style="list-style-type: none"> ■ インベントリ取得 ■ ファームウェア更新 	<ul style="list-style-type: none"> ■ iRMC ■ ネットワークカード ■ デュアル M.2 コントローラカード 	PRIMERGY の BIOS/ファームウェアの Web 公開ページ、および製品の修正モジュール同梱の readme/手順書を参考に実施してください。
NCC	ipmi_checks	ハードウェア異常、OS 状態異常、温度異常	iRMC からエラーの確認が可能です。
Alerts	エラー監視		
その他	VIB リストに含まれないバイナリの実行	<ul style="list-style-type: none"> ■ Ipmitool ■ Ipmicfg ■ mvcli ■ mnv_cli ■ smartctl_cmd ■ smartctl ■ iSMART 	VMkernel.Boot.execInstalledOnly 設定を無効にします。 「 対処 」を参照してください。

対処

VMkernel.Boot.execInstalledOnly 設定を無効（デフォルト）のまま運用することでエラーは回避できます。詳細は KB を参照してください。

<https://portal.nutanix.com/kb/10998>

Prism での Network 画面の結線表示について

モデル	AOS	ハイパーバイザー
XF M7 全モデル	6.5.3.5 6.5.4.5	AHV
XF M3 全モデル	6.5.1.5 6.5.1.8 6.5.2.5 6.5.3 6.5.3.5 6.5.4.5	
XF M2 全モデル	6.5.1.5 6.5.1.8 6.5.2.5 6.5.3 6.5.3.5 6.5.4.5	

概要

Prism Web コンソールの Network 画面 [注] にて、以下のケースでは Link Status と結線が正しく表示されません。

[注] Network 画面については『Prism Element Web Console Guide』の「[Network Visualizer](#)」を参照してください。

区分	ケース	留意事項	代替手段
運用	ホスト・スイッチ間のネットワークが切断 (linkdown) した場合	Link Status が「Not Connected」とならず、結線が表示されたままの状態となります。	アラートが通知されます。Alerts 画面の指示に従って対処してください。 Network 画面にて最新の状態を確認する場合は、「 対処 」を参照してください。
	ホスト・スイッチ間のネットワークが切断状態 (linkdown) から復旧 (linkup) した場合	Link Status が「Connected」とならず、結線が未表示のままの状態となります。	「 対処 」を参照してください。
保守	ホストとスイッチ間の結線変更に伴う保守作業において、リンク状態に変更が発生した場合	Link Status と結線が正しく表示されません。	「 対処 」を参照してください。
	スイッチの設定変更に伴う保守作業において、リンク状態に変更が発生した場合		

対処

Network 画面については、Acropolis service を再起動にて正しく表示されます。

1. クラスタ内で稼働するいずれかの CVM に SSH 接続します。
2. 次のコマンドで Acropolis service を再起動します。

```
nutanix@cvm$ allssh genesis stop acropolis; cluster start
```

3. しばらく待ってから、結線が正しく表示されることを確認します。

GPU についての留意事項

モデル	AOS	ハイパーバイザー
XF8050 M3	6.5.1.8	AHV 20220304.336
XF8055 M3		
XF8055 VDI M3		

概要

AOS6.5.1.8 にバンドルされている AHV 20220304.336 で GPU は使用できません。

影響

AHV 20220304.336 で GPU (vGPU と Passthrough) は使用できません。

原因・対処

既知の問題 (Nutanix 社 Field Advisory #0109)

https://download.nutanix.com/alerts/Field_Advisory_0109.pdf

GPU を利用する場合は、AOS6.5.1.8 にアップグレードはせずに AOS6.5.2.5 にアップグレードしてください。

ノード増設の留意事項

モデル	AOS	備考
XF M7 全モデル	6.5.4.5	-
XF M3 全モデル	6.5.4.5	-
XF M2 全モデル	6.5.4.5	-

概要

ノード増設時、Host Networking 画面にて以下のメッセージが表示されます。

Failed to get uplink information for one or more nodes. Error: Failed to read hypervisor information for host IPs: <xxx.xxx.xxx.xxx> .

影響

Host Networking 画面にて Uplink の設定ができません。

原因

既知の問題（Nutanix 社 ENG-541529）

対処

Nutanix サポートへ問い合わせてください。お問い合わせの際は ENG-541529 をお伝えください。

標準ノードの増設（ESXi の場合）の留意事項

モデル	AOS	ハイパーバイザー
XF M7 全モデル	6.5.3.5 6.5.4.5	ESXi 7.0U3
XF M3 全モデル	6.5.1.8 6.5.2.5 6.5.3 6.5.3.5 6.5.4.5	ESXi 7.0U2 ESXi 7.0U3
XF M2 全モデル	6.5.1.8 6.5.2.5 6.5.3 6.5.3.5 6.5.4.5	ESXi 7.0U2 ESXi 7.0U3

概要

ノード増設を実施する際、以下の場合に留意があります。

- Backplane LAN が無効の場合
 - Default Virtual Switch（vSwitch0）以外に仮想スイッチがある
- Backplane LAN が有効の場合
 - Default Virtual Switch（vSwitch0）および Backplane LAN 用の仮想スイッチ以外に仮想スイッチがある

影響

増設対象ノードにて Default Virtual Switch（vSwitch0）以外に接続している Port が有効な状態にてノード増設を実施した場合、Expand Cluster タスクの結果が、Failed または Aborted になります。

原因

増設対象ノードには Default Virtual Switch（vSwitch0）のみが作成されるため、他の Virtual Switch に接続すべき Port が有効になっていると増設対象ノードと増設先クラスターの通信が行えないため本問題が発生します。

対処

1. ノード増設を実施する前にスイッチ側のサーバー接続 Port 設定を一時的に変更します。
スイッチ側のサーバー接続 Port の確認、無効、有効化、の手順については各接続スイッチのマニュアルを参照願います。
 - a. 増設対象ノードが Default Virtual Switch（vSwitch0）に使用している Port が有効であることを確認します。
 - b. 増設対象ノードが他の Virtual Switch に使用している Port を一時的に無効にします。
2. ノード増設を実施し、Expand Cluster の進捗率が 100%になることを確認します。
3. 手順 1. で一時的に無効にした Port を有効に戻します。
4. ノード増設手順を継続してください。

Foundation Platforms のアップグレードについて

モデル	AOS	Foundation	Foundation Platforms
XF M7 全モデル	6.5.3.5	5.4.2	2.13.2
	6.5.4.5	5.5	2.14
XF M3 全モデル	6.5.3.5	5.4.2	2.13.2
	6.5.4.5	5.5	2.14
XF M2 全モデル	6.5.3.5	5.4.2	2.13.2
	6.5.4.5	5.5	2.14

概要

Foundation 5.5 にバンドルされている Foundation Platforms は 2.14 です。ここでは、2.14 から 2.14.1 にアップグレードする方法について説明します。詳細は『[Foundation Platforms Submodule Guide](#)』を参照してください。

資料のダウンロード

- Nutanix Support Portal にログインします。ログインするためにはユーザー登録が必要です。
<https://portal.nutanix.com/>
- メニューから [Downloads] を選択します。
- 左ペインから [Products] を選択し、Essential Tools 欄の [Foundation Platforms] を選択します。
- [Foundation Platforms (Version: 2.14.1)] (foundation-platforms-2.14.1.tar.gz) をダウンロードします。

CVM Foundation の Foundation Platforms アップグレード (CLI Method)

詳細は『[Foundation Platforms Submodule Guide](#)』の「Upgrading Foundation Platforms on CVM Foundation (CLI Method)」を参照してください。

- 対象ノードの CVM に SSH 接続します。

項目	入力値
ホスト	<CVM の IP アドレス>
ユーザー名	nutanix
パスワード	CVM のパスワード

2. 次のコマンドを実行し、Foundation と Foundation Platforms のバージョンを確認します。

```
nutanix@cvm$ ./foundation/bin/component_manager components
```

実施例:

```
Component: foundation-platforms
```

```
Version: 2.14
```

```
Component: foundation
```

```
Version: 5.5
```

3. クライアント端末に資材 (foundation-platforms-2.14.1.tar.gz) を、ファイル転送ソフトを使用して対象ノードの CVM に転送します (SFTP を使用して転送)。
upload 先 : /home/nutanix/
4. 次のコマンドを実行し、Foundation サービスを停止します。

```
nutanix@cvm$ genesis stop foundation
```

5. 次のコマンドを実行し、Foundation Platforms をアップグレードします。

```
nutanix@cvm$ ./foundation/bin/component_manager install -n "foundation-platforms" -  
p ./foundation-platforms-2.14.1.tar.gz
```

6. 「foundation-platforms installed successfully」と表示されたら次のコマンドを実行し、JSON ファイルを更新します。

```
nutanix@cvm$ /home/nutanix/foundation/bin/component_manager components --to_json
```

7. 次のコマンドを実行し、Foundation サービスを再起動します。

```
nutanix@cvm$ genesis restart
```

8. 次のコマンドを実行し、CVM Foundation と Foundation Platforms のバージョンを確認します。

```
nutanix@cvm$ ./foundation/bin/component_manager components
```

実施例:

```
Component: foundation-platforms
```

```
Version: 2.14.1
```

```
Component: foundation
```

```
Version: 5.5
```

9. すべてのノードで手順 1-8 を実施します。
10. 作業で使用したターミナルソフトを exit ですべてログアウトします。

FoundationVM の Foundation Platforms アップグレード (GUI Method)

詳細は『[Foundation Platforms Submodule Guide](#)』の「Upgrading Foundation Platforms on Foundation VM (GUI Method)」を参照してください。

保守

ここでは、保守時に発生する可能性のあるトラブルへの対処方法や推奨する運用方法について説明しています。

冗長化電源の片系故障時の留意事項

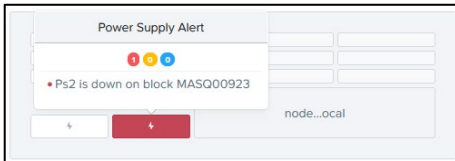
モデル	AOS	備考
XF M3 全モデル	6.5.1.5	-
	6.5.1.8	
	6.5.2.5	
	6.5.3	
	6.5.3.5	
	6.5.4.5	

概要

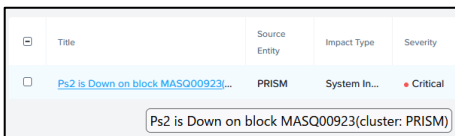
電源ユニット PSU#1 に故障が発生した際、Prism 上では PSU#2 のエラーとしてアラートが表示されます。なお PSU#2 故障時は、iRMC 上および Prism 上ともに PSU#2 のエラーとしてアラート表示されます。

影響

- Prism [Hardware] - [Diagram] 画面
PSU#2 に「Power Supply Alert」が表示されます。



- Prism [Alert] 画面
PSU#2 のアラートとして表示されます。



対処

iRMC [System] - [Power] - [Power Supplies] において、故障の発生した PSU 情報を確認できます。

Power								
Power Supplies								
Status	Designation	Model	Total Capacity [Watt]	Vendor	Part Number	Version Information	CSS	
⚠ Redundant power supply - Primary power failed	PSU1	DPS-1600AB-36 A	1600	DELTA	A3C40215613	00A	✓	
✅ Power supply - OK	PSU2	DPS-1600AB-36 A	1600	DELTA	A3C40215613	00A	✓	

Prism での Network 画面の結線表示について

モデル	AOS	ハイパーバイザー
XF M7 全モデル	6.5.3.5	AHV
	6.5.4.5	
XF M3 全モデル	6.5.1.5	
	6.5.1.8	
	6.5.2.5	
	6.5.3	
	6.5.3.5	
XF M2 全モデル	6.5.4.5	
	6.5.1.5	
	6.5.1.8	
	6.5.2.5	
	6.5.3	
	6.5.3.5	
	6.5.4.5	
	6.5.4.5	

詳細は「運用」の「[Prism での Network 画面の結線表示について](#)」を参照してください。

M.2 保守（システムボードに搭載時）の留意事項

モデル	AOS	ハイパーバイザー
XF M3 全モデル	6.5.2.5	AHV
XF M2 全モデル	6.5.2.5	

概要

M.2 保守（システムボードに搭載時）を実施する際、以下の場合に留意があります。

- Default Virtual Switch (vs0) 以外に仮想スイッチがある、かつ
- Default Virtual Switch (vs0) の設定が Active-Active (LACP 有効) である

影響

ハイパーバイザーのアップロードで進捗が 100%にならず、「Imaging is not running for node <CVM の IP アドレス>: imaging percent <パーセンテージ>」で Failed になります。

対処

M.2 保守（システムボードに搭載時）の実施前と実施後によって対処が異なります。

実施前は「[事前に対処する方法](#)」に進んでください。

実施後は「[Failed が発生した後に対処する方法](#)」に進んでください。

■ 事前に対処する方法

1. スイッチの設定を一時的に変更します。
 - a. 保守対象ノードが Default Virtual Switch (vs0) に使用している Port が有効であることを確認します。
 - b. 保守対象ノードが他の Virtual Switch に使用している Port を一時的に無効にします。
2. M.2 の交換を実施し、ハイパーバイザーのアップロードの進捗が 100% になることを確認します。
3. 手順 1. で一時的に無効にした Port を有効に戻します。
4. 以降は M.2 の交換を継続してください。

■ Failed が発生した後に対処する方法

1. Prism Web コンソールにログインします。
2. メニューから [Tasks] を選択し、Failed が本留意に該当するメッセージ「Imaging is not running for node <CVM の IP アドレス>: imaging percent <パーセンテージ>」であることを確認します。
3. スイッチの設定を一時的に変更します。
 - a. 保守対象ノードが Default Virtual Switch (vs0) に使用している Port が有効であることを確認します。
 - b. 保守対象ノードが他の Virtual Switch に使用している Port を一時的に無効にします。
4. Web ブラウザで iRMC にログインし、[Start Video Redirection] を選択し、ビデオリダイレクションを起動します。
5. 次の内容で AHV にログインします。

```
Nutanix AHV
MA6D006648 login: root
Password:
```

項目	入力値
login	root
Password	nutanix/4u

6. 次のコマンドを実行し、対象ノードを再起動します。

```
root@ahv# shutdown -r now
```

7. 約 10 分後に CVM の IP アドレスに ping コマンドを発行して疎通を確認します。
8. 手順 3. で一時的に無効にした Port を有効に戻します。
9. 以降は、以下のドキュメントを参照してください。
[Hypervisor Boot Drive Replacement \(Failed SATA DOM\) for Dell XC, Lenovo HX, and Fujitsu XF Platforms
 https://portal.nutanix.com/page/documents/details?targetId=Hypervisor-Boot-Drive-Replacement-Platform-DellXC-LenovoHX:Hypervisor-Boot-Drive-Replacement-Platform-DellXC-LenovoHX](https://portal.nutanix.com/page/documents/details?targetId=Hypervisor-Boot-Drive-Replacement-Platform-DellXC-LenovoHX:Hypervisor-Boot-Drive-Replacement-Platform-DellXC-LenovoHX)